

(別紙様式)

都道府県番号	26
都道府県名	京都府

()
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

京都市立鳳徳小学校(フロンティアスクール名)									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	1	2	1	12	15
児童数	43	41	43	50	40	41	1	259	

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ) 問題意識をもち、筋道を立てて考え、自ら学ぶ力を身に付ける</p> <p>・テーマ設定の趣旨 一人ひとりに応じた指導により、学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感し、さらに自分の学習を広げ、深めることができるという仮説のもと、個を生かす指導法の工夫に取り組む。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制

研究推進委員会 <各部> 課外学習部 教材開発部 授業研究部 教育環境部 情報・収集部 <各学年部会> 低学年部会 中学年部会 高学年部会 養護育成部会
--

() 実践研究の内容

算数科の教材開発

3年生かさしらべ教材「1リットルのゼリー」(発展教材)

かさしらべの学習で、子どもたちに1リットルの具体物(ゼリー)を提示し、触ったり数個の塊を合わせたりして、量感をつけるようにした。

1リットルのゼリーの大きさは、 1000cm^3 を使い、6年生に学習をする「体積」につなげるようにした。

ゼリーを教材にするよさ

- ・透明感があり、興味をもって1リットルの塊をとらえることができる。
- ・正確なかさを教えることができる。

- ・ 1リットルの単位のもとになる 1000 cm^3 の塊をつくることができ、正確なかさを知ることができる。
- ・ 重さの感覚が水とほぼ同じである。

学習方法

- ・ 1リットルのかさを手で触って大きさを体感する。
- ・ 1リットル + 1リットル = 2リットルの式をゼリー塊を使ってつくり、大きさを体感する。
- ・ 1リットルのペットボトルにゼリー塊を入れ、形が変わっても1リットルであることを体感する。

2年生筆算のたし算・ひき算教材「トランプ」(補充教材)

1年の学習「20までの計算」を十分に理解していない子に、2年生の「たし算・ひき算」を授業の中で理解させるため、トランプを教材として使った。

トランプを教材にするよさ

- ・ 数を量としてとらえることができる。
- ・ 操作が数図ブロックよりも簡単である。
- ・ トランプを使うことで子どもの興味をひきやすい。
- ・ 同じ数が4枚ある。

筆算で計算する授業で全員にトランプで計算する方法を指導した。その後の学習時間にその子はもちろんのこと計算のやや苦手な児童も、「トランプを貸してください」と借りに来て、トランプ操作を通じて繰り上がりや繰り下がりの方を理解しようとしていた。トランプを使って計算をはじめたときはカードを置いて計算していたが、慣れるにしたがって最小限のカードのみを出し、念頭で計算するようになった。

そしてトランプを借りに来る子が減り、1週間もすると1人もトランプに頼ることなく計算できるようになった。

計算する方法

1 トランプのカード0～10を4枚ずつ並べる

2 計算例 $2 + 9$ の計算

3 2 計算の苦手な子は目を数える

+ 9 計算のやや苦手な子は10のカードを見て10の補数を考える

答の1の位に1のカードを置く

繰上がりで1のカードを10の位の3の上に置く

答の10の位に1 + 3で4のカードを置く